

1985年度ロカルノ映画祭グランプリ受賞 フレディ・M・ムラー監督作品

山の焚火

南の風が吹きぬける時、山は震え

姉は弟を“愛”するようになる……

■脚本/フレディ・M・ムラー
■編集/ヘレーナ・ゲルバー

■撮影/ピオ・コラーティ
■音楽/マリオ・ベレッタ

■美術/ベルンハルト・ザウター
■出演/トマス・ノック ヨハンナ・リーア ドロテア・モリッツ ロルフ・イリック

■録音/フロリアン・アイデンベンツ
1985年度 スイス映画 イーストマンカラー・ビスタサイズ 2時間 配給株式会社セゾン BERNARD LANG AG



HÖHENFEUER

HÖHENFEUER 山の焚火



1985年/スイス映画/カラー/ヴィスタビジョン/2時間
配給/(株)シネセゾン

広大なアルプスの自然を背景に描き出された映像詩の傑作

外界との交渉を絶って暮す山岳民の家族。季節の移り変わりとともに姿を変える美しい山々のもとで、彼等は静寂の中に日々をおくっていた。声をもたず耳の聞こえない少年とその姉は、やがて自然の成り行きであるかのように結ばれる。音響と沈黙、光と鏡を効果的に使いながら素朴な日常の中に、神秘的な世界が浮かびあがる。繊細で緊迫感のある美しい映像と斬新な音の効果が見事に調和した作品。1985年度ロカルノ映画祭で話題を独占した。

フレディ・ムラー監督は、ダニエル・シュミット、アラン・タネールに続くスイス映画界の鬼才

1985年ロカルノ映画祭で全世界に先がけて公開され、見事グランプリを受賞した「山の焚火」は、映画史にまた一人重要な作家が誕生したことを告げている。

フレディ・ムラー監督は、1940年スイスのドイツ語圏生まれ。60年代から実験的映画や記録映画を撮り続けてきた。「エイリアン」の美術で知られるH・R・ギーガーとの協力による「スイスメイドー2069」「パッセージ」、全篇目隠しをして音響を頼りに撮った「盲目の男のヴィジョン」、スイスの山岳地域の住人たちを記録した「われら山人たち」など多様なフィルモグラフィをもつ才人。独特の作風は数千本の映画の記憶とムラー自身の試行錯誤から生まれたものである。

「山の焚火」を語る……………フレディ・M・ムラー

この物語は、アイスランドでも日本でも自然と文化の間のバランスがある所ならどこでも起こりえます。……

私は、村（それは出てきませんが）を、ある一つの村のままであるように描きたい。その村は、観客自身が自分の記憶の中で抱くような村でなければなりません。私は物語文学がいつでも容易に創造する世界を（映画によって）作ろうとしています。それは空間を想像に委ねることによって観客の創造性を作り出すというものです。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ■監督・脚本……………フレディ・M・ムラー | ■出演 |
| ■撮影……………ピオ・コラーディ | 少年……………トーマス・ノック |
| ■音楽……………マリオ・ベレッタ | 姉ベッリ……………ヨハンナ・リーア |
| ■美術……………ベルンハルト・ザウター | 母……………ドロテア・モリッツ |
| ■録音……………フロリアン・アイデンベンツ | 父……………ロルフ・イリック |
| ■編集……………ヘレーナ・ゲルバー | 祖母……………ティッリ・ブライデンバッハ |
| ■製作主任……………ベルナルド・ラング | 祖父……………ヨールグ・オーダーマツ |



【物語】1984年アルプスの山奥、人里離れた農場に思春期にさしかかった十代の姉と弟が両親と共に住んでいる。ろう啞者の弟は学校には通わず、山地で働く父の手助けをしながら、将来教師になることを夢みている姉から文字や算数を教わっている。弟の奇行に時々頭を悩ます家族だったが、皆の弟に対する愛情は人一倍だった。世間との付き合いもなく孤立した暮らしを営んでいるこの家族は平和な日々を送っていた。夏も終わろうとしているある日、芝を刈っていた弟は故障した芝刈り機に腹を立て、崖から突き落として壊してしまう。激怒した父は弟を家から追い出し、彼は山の一軒家に一人で暮らすようになる。日が経っても弟はなかなか戻ってこないで様子を見に姉は弟を訪れる。久しぶりに再会した姉と弟。焚火を囲んで楽しく食事をし、二人だけの夜を明かす……。

冷たい雨が降りそそぐ晩秋の頃、父が弟のもとへやって来た。ほほむ父にすがりつく弟。いつものように平和な日々は再び始まるかにみえた……。

ところが姉は弟の子供を身ごもっていた。姉はしだいに大きくなってゆくお腹をさすりながら、困惑と女としての喜びに複雑な心境だった。冬も深まり山の表情は厳しさを増してゆく。そんなある日……。

7月中旬よりロードショー!

特別鑑賞券1,200円 絶賛発売中

(当日1,500円均一の処)

当劇場窓口、都内各プレイガイド、チケット・ゼン、チケットぴあ 他でお求めください。
グループ鑑賞券のお申し込みは㈱メイジャー
☎03(541)2508まで。

連 日				⊕のみ追加
11:30	2:00	4:30	7:00	夜 9:30

●自由席定員制・入替制

CINE VIVANT

シネ・ヴィヴァン・六本木

地下鉄六本木駅下車・テレビ朝日側出口 WAVE地下1階
お問い合わせ03(403)6061